

サービスグラント 年次報告書 2016-2017

[2016年4月1日－2017年3月31日]



VISION

社会参加先進国へ

MISSION

プロボノを進化させる



- － 市民が、自分自身の可能性を最大限に生かして社会参加している
- － 企業が、社会課題解決と、自社のメリットとを両立させる方法を見出している
- － 行政が、市民の知恵を取り入れ、持続的に改善できる仕組みを備えている
- － 誰もが、人の役に立つ喜びを感じられる機会が、すぐそこにある
- － 世界中の課題解決手法を取り入れ、常に世界のより良い方法を探し求め続けている

それが、私たちが考える、私たちが目指す、社会参加先進国です。

2005年、サービスグラントは、日本における「プロボノ」のフロンティアとして、産声を上げました。それから月日が経過し、プロボノは、ビジネスパーソン社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。

サービスグラントが、この10年間に培ってきたもの。それは単に、プロボノプロジェクトの運営という狭い範囲の個別手法に留まるものではありません。

立場の異なる複数の主体が、共通の目的のもとに協働し、前向きな成果を生み出すに至るまでに、何が求められるのか。どのような知識が求められ、どのような人が力を発揮し、どのような体制を組むことがより確実性を高められ、どのような手順で進めることが効率性を実現でき、どのようなコミュニケーションのスタイルが求められるのか。

この普遍的な問いの答えに、私たちの知見は、つながっていくはずです。

サッカーをする人が、ボールがあればだれもが一緒になってプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を超えてアーティストにまつわるエピソードを語り合えるように。

社会課題の解決においても、基本的な考え方や行動様式が社会全体で共有され、そこに集まる人たちが、立場の違いを尊重しながら、当たり前のように協働できる社会。サービスグラントは、日本を、世界を、社会参加先進国にすることを目指して、挑戦を続けます。

代表メッセージ

2016年から2017年にかけてのサービスグラントは、それまでに議論し、検討してきた新しいしくみを、いよいよ実践へと進める時期となりました。

プロボノワーカーのなかで、プロジェクトチームの一員として参加する以上に、サービスグラントの運営そのものに関わる「パートナー」のしくみがスタートしました。パートナーは、サービスグラントの自主事業のプロジェクトにおいて、支援先候補となる団体の審査を担当し、採択の可否や、具体的な支援内容の決定という重要な役割を担います。さらに、採択した団体を、約100名のプロボノワーカーを前に紹介し、プロジェクトチームへの参加を募る「新プロジェクト発表会」もスタートしました。



プロジェクトが始まってからも、パートナーどうし月1回集まって、プロジェクト相互間の情報共有を図ったり、また、プロジェクトマネジャーに対して、これまでのプロジェクト経験にもとづく充実した資料とともにプロジェクト運営のコツを伝授する「PM勉強会」が開かれたり、パートナーのみなさんが、プロジェクトマネジャーのメンター役をつとめる、といった取り組みが、パートナーのみなさん主導で動き始めました。新プロジェクト発表会の壇上で支援先団体についてプレゼンするみなさんの姿を見ても、また、PM勉強会などいろいろな場面で作成される資料の一つひとつを見ても、素晴らしい人に恵まれたコミュニティが生まれつつあることを実感します。

この年次報告書の中でも、対前年で、さらに多くのプロボノワーカーが参加し、より多くのプロジェクトを実現し、プロジェクト実施件数はあと少しで年100件を超えるところまで近づいてきたことをお伝えしています。その実績には素直に喜び、そして、関わったすべての人を誇りに思い、敬意を表したいと思います。

それと同時に、私から、あえて、これからの課題を提示するとすれば、社会を見渡せば、桁違いの規模感で課題が存在しており、そこに対してできることを考えていかなければならない、ということです。いまのようにプロボノプロジェクトを着実に実施していくことに加えて、いまよりひと桁、ふた桁大きな規模感に、どうアプローチしていけるのか。プロジェクトを通じて得られた成果を社会全体に波及させていくような取り組みにチャレンジするにはどうすればよいのか、といったことを考えてしまいます。

サービスグラントの特徴の一つが、これまでのプロボノプロジェクトの運営を通じてさまざまな経験や課題を蓄積し、文書やツールを整え、システム化を図ってきたことであり、この点はサービスグラントがこれからも大切にしていきたいところです。とはいえ、既存の手法に捉われてしまうがあまり、イノベーションの機会を逃してしまうことは避けなければなりません。

社会課題の深さ・大きさの前に、プロボノの可能性を最大化していくためには、非線形的な進化も求められるでしょう。活動が広がりつつあるからこそ、自戒を込めて、現状に甘んじないことの重要性を感じる今日この頃です。

認定NPO法人 サービスグラント
代表理事 嵯峨 生馬

2016年度の1年間で

94件のプロボノプロジェクトを運営

P6 インパクトある支援を目指して



昨年度から+468名増の

累計**3,262名**のプロボノワーカーが登録

P8 社会にビジネスに役立つ経験を



企業・行政・財団と

67件の協働プロジェクトを実施

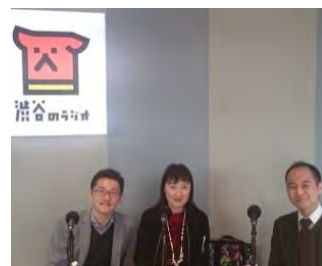
P10 広がるパートナーシップ



新聞、ウェブ、雑誌など

28件のメディアに掲載

P13 メディア掲載一覧



今年度の支援先一覧

【東京事務局】

(東京都・千葉県・神奈川県・福島県・宮城県・岩手県・青森県・北海道)

NPO法人ADDS
NPO法人GEWEL
NPO法人JUON NETWORK
NPO法人PIECES
NPO法人TABLE FOR TWO International
会津中央乳業株式会社
NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
株式会社あんしん生活
NPO法人石巻復興支援ネットワーク
NPO法人風のやすみば
きらきらママの会
NPO法人キッズドア
社会福祉法人キングス・ガーデン東京
NPO法人健康フォーラムけやき21
NPO法人子育てオーダーメイド・サポートこもも
NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ
NPO法人子ども教育立国プラットフォーム
こどもコワーキングBabyCo・杉並こどもプロジェクト
さきちゃんち運営委員会
NPO法人三多摩市民後見を考える会
NPO法人ジービーパートナーズ
NPO法人シマフクロウ・エイド
市民のためのがん治療の会
NPO法人まちづくりNPO新町なみえ
NPO法人スマイルクラブ
NPO法人せたがや子育てネット
せたがやチャイルドライン
NPO法人 全国移動サービスネットワーク
第20回全国シェルターシンポジウムin東京 実行委員会
全国フードバンク推進協議会
社会福祉法人 大洋社 ひまわり苑
在宅ホスピスケア・ボランティアさくら
地域通貨サークル「助け愛の会」
NPO法人ちえぶら
一般社団法人ドゥーラ協会
NPO法人ドリームタウン
NPO法人 日本シニアジョブクラブ
NPO法人日本セラブレイ協会
一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
野川元気スクールグループ
働く女性の全国センター
八王子市シルバーふらっと相談室 館ヶ丘
NPO法人バディチーム
NPO法人ハナラボ
東中野五丁目小滝町会
東大和市介護予防リーダー会
一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター
NPO法人ぶかぶか
NPO法人福祉亭
NPO法人ブラチナ美容塾
NPO法人マタニティハラスメント対策ネットワーク (マタハラNet)
NPO法人まちこらば
株式会社みちさき
NPO法人みらいの森
NPO法人武蔵野すこやか
めじろ台町会連絡協議会
めじろ台安心ねっと
NPO法人めじろむつみクラブ
やのくち正吉苑
公益財団法人横浜YWCA
NPO法人楽の会リーラ
NPO法人aLku
KUMIKI PROJECT
株式会社坂ノ途中

【関西事務局】

(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・三重県・広島県)

NPO法人Rainbow Children Japan
NPO法人W.I.N.G-路をはこぶ
いこま棚田クラブ
磯路・弁天地域活動協議会
NPO法人おおさかこども多文化センター
NPO法人大阪被害者支援アドボカシーセンター
NPO法人音楽サポートネット音結
公益財団法人家庭問題情報センター (FPIC)
NPO法人起立性調節障害ピアネットAlice
NPO法人健康ラボステーション
NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)
NPO法人こどもの里
さかい障がい児放課後連絡会
NPO法人女性ライフワーク協会
中宮地域活動協議会
NPO法人西須磨学童保育所
NPO法人にしよどにこネット
社会福祉法人萌 パン工房ひだまり
ぶちでガチ！育休MBA講座
社会福祉法人ぶろぼの
公益財団法人箕面市国際交流協会
リトルバイン総合型地域スポーツクラブ
明日の地域医療を考える住民の会 あした葉
内部地区総合型スポーツクラブうつつ☆スター
環境教育ネクストステップ研究会
熊野ふれあい広場クローバー
NPO法人フリマドンナ
松永はきもの資料館

1 | インパクトある支援を目指して

プロジェクト
実施件数

94件

長期
40件

短期
54件

プログラムの多様化、中間支援組織の伴走支援を開始

プロボノに対する支援ニーズ、参加ニーズが多様化する中、サービスグラントでは、多様なプロボノプログラムを通じて、より多くの団体により多くのプロボノワーカーが参加できるような取り組みを行っています。

2016年度は、長期・短期プログラムを織り交ぜながら、94件のプロジェクト（昨年度 +10件）を実施しました。

また、今年度の新たな取り組みとして、プロボノプログラムの運営を担う意欲のある地域の中間支援組織と連携し、地域が主体となって運営するプロボノを側面的に支援する「伴走支援」を、川崎市・八王子市の2地域で実施しました。

	長期プログラム	短期プログラム
情報発信	ウェブサイト 印刷物 営業資料 マーケティング基礎調査	Facebook活用 ウェブサイト改善提案 チラシ・ポスター制作 クラウドファンディング企画 営業資料ブラッシュアップ 外国語翻訳
組織運営	プログラム運営マニュアル 業務フロー設計 寄付管理	クラウドツール活用 税務・経理相談 法務相談
事業戦略	事業計画立案 事業評価	課題整理ワークショップ スペース活用会議 アンケート活用入門



チームの皆さんと、支援先の皆さんとのミーティングの様子。
（スマイルクラブチーム）



プロジェクト完了後、支援先の皆さんと一緒に、笑顔で記念撮影。
（ブラチナ美容塾チーム）

長期プログラムで40団体を支援

長期プログラムとは、プロボノワーカー5～6名によるチームを編成し、1名につき週5時間を目安に、3～6ヵ月間にわたって支援先の基盤強化につながる成果物を提供するプログラムです。支援先に対して、ウェブサイト、印刷物、事業計画立案などの成果物を提供しており、サービスグラントが活動開始以来続けてきた、サービスグラント定番のプログラムです。

今年度は40件のNPO法人・地域団体・社会起業家等に対して、長期プログラムによるサポートを提供しました。

短期プログラムで54団体を支援

長期間のコミットメントが難しいプロボノワーカーや、まずは一度プロボノによる支援を体験してみたいNPO・地域団体などを対象に、比較的軽めの負担で参加できる短期プログラムを導入しています。短期プログラムには、作業ボリュームの小さい成果物を本番わずか1日で実現する「プロボノ1DAYチャレンジ」などがあります。

今年度は広島県福山市や三重県四日市市など地域での1DAYチャレンジの実施を含め、54件の団体に対して短期プログラムによるサポートを実施しました。



大阪で開催されたプロボノ1DAYチャレンジのひとコマです。

プロボノ1 DAYチャレンジ

本番1日で参加できるコンパクトなプロボノ体験企画が「プロボノ1 DAYチャレンジ」です。2016年度は7月2日に大阪、7月30日に東京で実施し、合計約100名のプロボノワーカーが参加、20団体を支援しました。参加者は、本番約1カ月前に開催される事前オリエンテーションに参加し、本番当日までの間、チームごとに支援先の活動を体験したり、支援先や関係するテーマについてインターネット調査などをしながら準備。本番当日は、まる1日を使って支援先の事務所・活動拠点を訪問しプロボノワークを実施しました。課題整理ワークショップ、チラシ作成、Facebookページの立ち上げなど、各団体のニーズに応える成果物を見事に完成。短期間のプロジェクトながら支援先団体の満足度も高く、成果報告会では参加プロボノワーカーがこの日のプロボノ体験をいきいきと語ってくれました。



プロボノ1DAYチャレンジ当日に実施した成果報告会には全チームが集合。

ママボノ

育児休業中の女性や、出産を機に退職をした女性たちによる、プロボノプロジェクトです。復職に向けたウォーミングアップとして、働く女性同士のネットワーク作り、お子さん連れで参加できる社会貢献活動として、復職前の女性に大変高い関心を持っていただいています。

2013年度からこれまで各年度1～2チームで実施してきたママボノを、2016年度は日本財団の助成を得て、東京10チーム、大阪2チームで大規模に開催しました。

チームはそれぞれ、女性の視点、子育ての経験などを生かし、子ども・女性関連、医療福祉関連、町内会など様々な団体を、10月下旬～12月中旬までの約2か月間のプロジェクトで支援しました。

支援先の皆さんからは、「感動して涙が出そうでした。調べ上げたデータをもとにママボノとしての提案が集約されているように思いました」「丁寧に対象者に聴き取りをして、精査しながら成果物を作っていただき、その姿に感銘を受けました」など、喜びの声をいただきました。

参加者のアンケートでは、「復職後は出会えないであろう全く環境が異なるメンバーとの交流や出会いはとても刺激的かつ視野を広げてくれた」「復職前のトレーニングになっただけでなく、自分が勤める企業・業界以外で働く方と取り組めたことで、視野が広がった」「仕事において新たなチャレンジができそうな手ごたえを感じた」などの感想をいただきました。



東京のオリエンテーション（参加者顔合わせ）にて、ママボノメンバー大集合。



大阪の成果提案にて、ママボノメンバーの皆さんと支援先の皆さん、託児スタッフの皆さんと。

プロボノ運営事務局 伴走支援事業

サービスグラント以外のプロボノプロジェクト運営団体の拡大と機能強化を目的として、地域の中間支援組織を対象とした「伴走支援」を開始しました。伴走支援とは、主体となってプロボノ事務局を運営しようとする中間支援組織に対し、サービスグラントが、プログラムの企画から実際のプロジェクト完了までを通じて、側面的な支援を提供するものです。サービスグラントが開発した各種ツール等を提供しながら、プロボノ運営事務局として必要なスキルやノウハウの移転を行うことを目指しています。

2016年度は、この伴走支援により「八王子市市民活動支援センター」が2件の短期プロジェクトを、「一般財団法人かわさき市民しきん」が「プロボノチャレンジ KAWASAKI2016（→p.11）」で6件の短期プロジェクトを、プロボノ運営事務局として実施・完了することができました。



「八王子市市民活動支援センター」が実施したプロボノプロジェクト報告会の様子。

ふるさとプロボノ

遠隔地から寄せられるプロボノへのニーズに応える「ふるさとプロボノ」。

2016年度は北海道厚岸郡浜中町の「NPO法人シマフクロウ・エイド」のウェブ制作プロジェクトを実施。プロボノチームは、プロジェクト中に一度、2泊3日で現地を訪問し、現場見学や関係者へのヒアリングを行いました。それを元に東京でプロジェクトを進め、ウェブサイトリニューアルを完成させました。



絶滅危惧種シマフクロウの保全活動を行う北海道の団体の情報発信を支援。現地調査を含む「ふるさとプロボノ」を実施しました。

2 | 社会にビジネスに役立つ経験を

プロボノワーカー
スキル登録者数

3,262名

前年比
+468名

多様化するプロボノワーカー

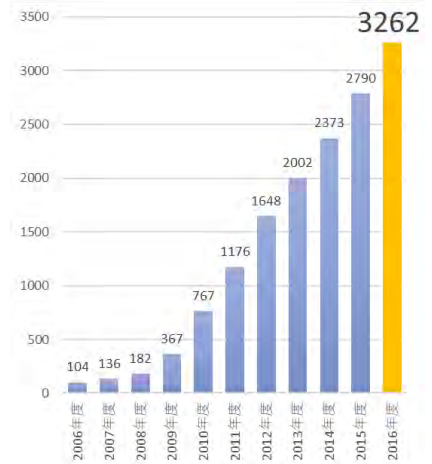
サービスグラントにスキル登録をいただいたプロボノワーカーは、2016年度新たに468名を数え、累計登録者数も3,262名に上りました。サービスグラントでは、今後も、ご登録いただいたみなさまにできるだけ多くプロボノへの参加機会を創出できるよう挑戦していきます。

ご登録いただいているプロボノワーカーの内訳について次のような傾向が見られます。

(1) 社会人年数別

プロボノワーカーとしてスキル登録した人の中心は入社1～10年程度の世代で、全体の約半数を占めます。

あわせて、20代の若手社会人のご参加や、50代以上のご登録も広がっており、プロボノのすそ野が着実に広がりを見せています。



(図1) スキル登録者数の推移

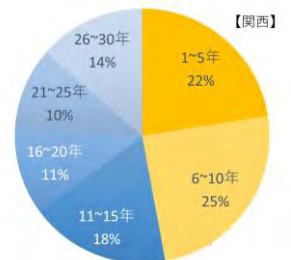
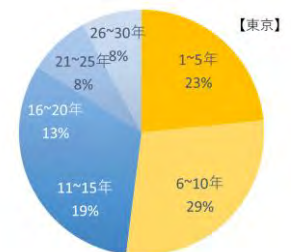
(2) 男女別

男女比については、過去数年間ほぼ同じ比率を維持しており、男性の登録者が58%となっています。

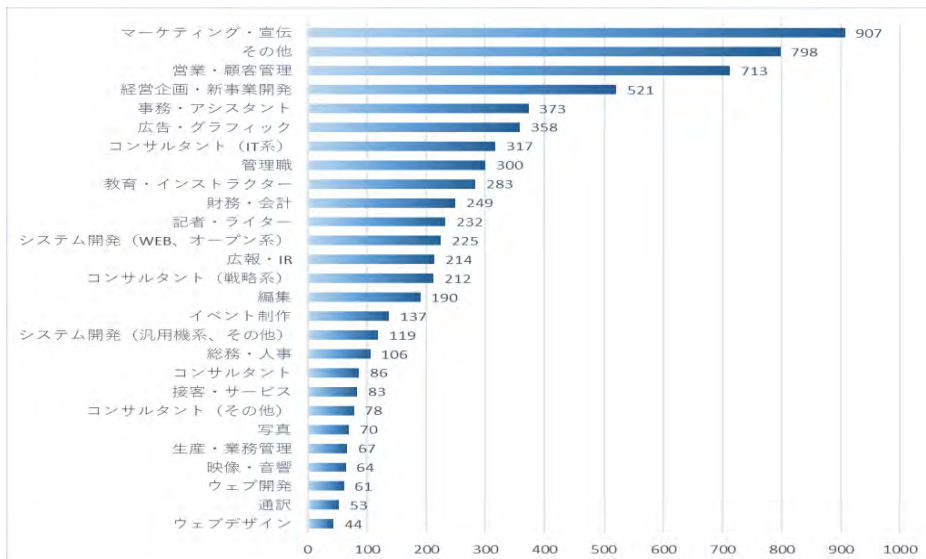
(3) 職種

マーケティング関連、営業職に続き、2016年度は経営企画、新規事業開発や広告・グラフィックなどに携わるプロボノワーカーの登録が目立ちました。

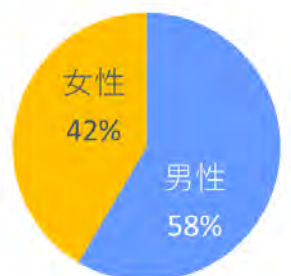
その他にも、一般的な事務職から、デザイナーやコピーライターなどのクリエイターに至るまで、幅広い職種の皆様から多数のご登録をいただいています。



(図2) 社会人年数別登録者の比率



【参考】職種別登録数 (2015年度) ※複数回答あり



(図3) 男女別登録者の比率

プロジェクトのすべてをプロボノワーカーがプロデュースする「プロボノが運営するプロボノ」へ

プロボノプロジェクトへの参加に加えて、一步進めて、サービスグラントの運営を応援したり、仕組みづくりに協力するコミュニティ「サービスグラント友の会」では、プロボノプロジェクトのよりよいあり方を目指して、様々な提案や実践を行っています。

特に、2016年度は、一部のプロボノプロジェクトの立ち上げの初期段階から関わる「パートナー」の制度を、東京エリアにおいて、新規にスタートしました。

パートナーには、12名の経験豊かなプロボノワーカーが参加し、事務局とともにプロボノプロジェクトを推進する立場として、審査担当者として支援先の審査に関わったり、チームメンバーを募るプロボノワーカー限定イベント「新プロジェクト発表会」を運営したり、アカウントディレクター（全体統括）としてプロジェクト全般にわたってスーパーバイズするといった、数々の役割を担いました。

また、よりよいプロジェクト運営を推進するために、パートナーは、知見の共有や課題解決の方策を検討する場として月例会を開催したり、メンターとしてプロジェクトマネジャーを支えるなど、活発に自主的な活動を行っています。

これらは、プロボノワーカーが自身の経験をもとに、自主的に企画提案されたものです。さまざまな企画や実践が生まれ、今後の発展がますます期待される1年となりました。



新プロジェクト発表会の進行・運営はパートナーが中心になって行いました。

サービスグラント友の会 主な活動内容

●タスクフォース型の各種改善・企画提案の実施

サービスグラントの運営やプロボノプロジェクトのあり方に対する、各種改善や新規企画の提案募集を2016年より開始しました。本年度は、4名のパートナーから企画書が提出され、「サービスグラントの収益事業検討に向けた調査」や「プロボノワーカーのキャリアパスに関する調査」等が、約6カ月間のタスクフォースとして実施されました。

●勉強会・交流会の企画・運営

アカウントディレクターの月例会や、プロジェクトマネジャー対象の勉強会など、プロジェクトの枠組みを超えた横につながる機会、同じポジションならではの悩みを共有する会が経験者によって企画・運営されています。プロボノプロジェクトならではのマネジメントのノウハウを、ケーススタディやワークショップを通じて共有することで、プロジェクト運営の質向上に貢献しています。

●「NPO定点観測員」の実施

サービスグラントによるプロボノの効果検証、および、プログラムの改善につなげる試みとして、NPOのみなさまへご協力いただき、毎年Webアンケートを実施しています。3年目となる本年度は、NPOのみなさまの回答をサポートする試みとして、友の会メンバーによる訪問や電話によるインタビュー形式を導入。東京・関西エリアで8名の「定点観測員」が活動しました。



PM勉強会の進行・ファシリテーションを行うパートナー。PM応募者増につながりました。



定点観測の調査結果をもとに、観測員とプログラムの改善案を検討しました。

3 | 広がるパートナーシップ

協働
プロジェクト
67件

企業 22件
行政 35件
財団 10件

【1】企業との協働

サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員の皆さまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特長が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。

【協働パートナー企業のご紹介】（※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます。）

日本電気株式会社（NEC）

社会起業家を対象に、社員がプロボノによる支援を行う「NECプロボノイニシアティブ」の第7期が行われ、社員24名が参加し3団体を支援しました。山形県長井市の子育て支援事業と連携し、出産祝いとして配布するBabyBoxを企画制作する「NPO法人aLku」へは、マーケティング基礎調査を通して団体の魅力を再発見、BabyBoxの趣旨や想いがより伝わるストーリー仕立ての団体資料制作につなげました。“自治体×NPO×企業”の3者連携による地方創生推進事例はNEC社展示会でも報告され、注目が高まっています。

パナソニック株式会社

短期・長期あわせて4プロジェクトに19名の社員が参加しました。

関西エリアでは、国際交流、健康増進などを担う3団体に対して、マーケティング基礎調査や事業計画立案などを提供する長期プログラムに取り組んだ他、約1カ月の準備期間を経て臨むプロボノ体験イベント「プロボノ 1DAY チャレンジ」に社員チーム編成し2団体を支援しました。東京エリアでは、毎年、東日本大震災からの復興支援を担う団体への支援を継続しており、今年は、福島県の浪江町を拠点に活動している1団体の情報発信を支援しました。

※2011年のプロボノ活動開始以降、多くの社員の皆さまがビジネススキルを生かしてNPOなどの事業展開力を応援する“プロボノ”の取り組みが高く評価された結果、パナソニック株式会社は、2016年度の「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」において、特別賞を受賞しました。

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

三井住友フィナンシャルグループ（以下SMFG）のプロジェクトとして、三井住友銀行を含むSMFGグループ各社の従業員による横断型のプログラムを、2015年度より展開しています。

本年度は東京のNPO法人2団体を対象に、個人寄付者増加のための「マーケティング基礎調査」、および団体の基盤強化を目指し主に経理業務のツール改善につなげる「業務フロー設計」の2プログラムを新規に展開しました。

日立グループ

社員数名がチームを組み、NPOの抱える課題を約2カ月間で解決するという短期のプロボノ活動を実施しました。

本年度は、子育て支援、若者支援、環境保全などさまざまな領域で活動する5つの団体に対し、営業資料の作成や課題整理とアクションプラン提案などを通じ、団体の基盤づくりを支援しました。プロジェクト期間は短期間ながら、支援先、参加社員共に満足度の高い結果となりました。

また、プロジェクトと関連し、参加者の募集の際にワークショップを実施したり、プロジェクト期間中に全チームでの中間報告会を実施した結果、部門・チームを超えた社員同士の交流にもつながりました。

三菱商事株式会社

三菱商事復興支援財団の支援先である3事業者に対して、支援先の課題を整理し、解決の方向性や選択肢を検討するプロボノ 1 DAYワークショップを実施しました。

マーケティング基礎調査やマニュアル作成の指針提示など、直近の課題に対して的確なアドバイスや具体的なツールの提供などが成されました。参加した社員からは、このような新たな取り組みを会社として続けてもらいたいなど、とても前向きな意見が聞かれました。

【3】行政との協働

東京都福祉保健局「東京ホームタウンプロジェクト」

団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる2025年、超高齢社会。そのとき、東京のいろいろな地域で、人と人とのつながりが育ち、地域コミュニティが持続可能なかたちで運営されているには、どんな準備をすればよいか。住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる「地域包括ケアシステム」を東京でも実現していくため、東京都とサービスグラントの協働により2015年に始まったのが、「東京ホームタウンプロジェクト」です。多様な主体が力を合わせて「いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる」ことに挑戦しています。

初年度に引き続き2016年度も、東京都内で高齢者を対象に介護予防、サロンやコミュニティスペースの運営、地域の見守り活動、身の回りのサポートなどさまざまな活動に取り組む24の地域団体・NPO・社会福祉法人等に対して、団体の基盤強化につながるプロボノ支援を行いました。短期・長期プロジェクト共に、支援先団体からの満足度も高く、事後アンケートの結果で「参加してよかった」という回答が100%となりました。また、2016年度から新たに開始した、中間支援組織を支援対象とした「伴走支援」プログラムでは、八王子市市民活動支援センターが主催するプロボノプロジェクト運営の実施サポートをサービスグラントが行いました。

2017年2月4日には本年度総括イベント「東京ホームタウン大学」を開催。来場者は合計で550名を超え、東京ホームタウンプロジェクトで支援を受けた23団体が活動分野ごとの「分科会」に登壇し、各団体の活動内容や課題を参加者と共有しました。各プロジェクトやイベントの記事、都内のさまざまな地域づくりの取り組みは、特設サイト（<http://hometown.metro.tokyo.jp/>）をぜひご覧ください。



東京ホームタウンプロジェクトウェブサイトでは、各プロジェクトの記事や支援実績、イベントレポート等を掲載。



2016年度総括イベント「東京ホームタウン大学」分科会の様子。地域活動団体の発表に多くの参加者が聞き入りました。



川崎市内で活動する6団体を、25名のプロボノワーカーで支援しました。

川崎市

市民自治のまちづくりを推進する川崎市との協働で、企業人等の経験やスキルを、NPO・地域団体の活動支援や活動のステップアップにつなげる人材マッチングのモデル事業としてプロボノ体験プログラム「プロボノチャレンジKAWASAKI 2016」を実施しました。本年度は、川崎市内で活動する6団体に対し、25名の企業人等がビジネススキルや専門知識を市民活動に還元しました。また、人材マッチングのしくみを川崎市に定着させる試みとして、川崎市内で活動する中間支援組織である「かわさき市民しきん」をプログラム実施パートナーとし、マッチングや地域人材育成に係る研修や伴走支援を行い、市民が市民を支える仕組みを創出しました。

生駒市

全国で初めて、自治体×ママボノプロジェクト「イコママボノ」を行いました。生駒市内の子育てママによるプロボノチームを編成し、社会福祉法人で作っているパンの商品開発、棚田の魅力を伝える活動に向けたマーケティング基礎調査、子育て層に向けた運動プログラムの企画提案の3プロジェクトを実施しました。

四日市市

もう一歩進んだ市民協働を目指し、プロボノ活動支援の第一歩として「プロボノ1DAYチャレンジ in YOKKAICHI」を行いました。今回は、地域医療、地域スポーツ、環境教育に取り組む3団体と四日市で働く17名がタッグを組みました。



3団体を14名のママボノワーカーで応援しました。ママのチャレンジを子どもたちは応援していました。



四日市の企業や自治体で働く17名が参加し、3団体を応援しました。



福山市内で活動する3団体を、19名のプロボノワーカーで支援しました。

福山市

専門人材のボランティア登録制度「人材バンク」運用開始に向けて、個人の社会貢献活動に対する意識の醸成を図り、協働のまちづくりを深める仕組みの一つとして「プロボノ1DAYチャレンジ」を実施しました。

4 | プロボノを活用した人材育成

JOIN : 人材オープンイノベーションネットワークの立ち上げ

業種やセクターと協働し社会課題に向き合うことを通じて、リーダーシップの醸成、課題解決力の強化、異分野・異業種とのコラボレーション力の向上させる取り組みへの関心が高まっています。

そこで、富士ゼロックス総合教育研究所・フコク生命と協働し、社会課題解決とイノベーション推進を見据えた企業連携による人材育成を目的とした、人材育成、CSR、イノベーション推進関連部門のネットワーク（JOIN）を立ち上げました。

プロボノ価値共創プログラムの開催

JOINでの人材育成プログラムとして「プロボノ 価値共創プログラム」を開発、実施しました。プログラムでは、異企業でチームを組み、約1か月間で、NPOなどの支援先に対して成果物（例：チラシ、マニュアル、業務改善等）を提供するプロボノ活動を行います。参加者一人ひとりが社会感度を向上させ、コラボレーション力を磨く相互研鑽の機会とし、さらに、各人がイノベーションにつながるような学びや気づきを得ることを目指しました。2016年度は中堅向けプログラム2回、シニア向けプログラム1回を開催し、合計10社44名の方に受講いただきました。



プロボノ価値共創プログラム
1か月間のプロボノ活動の成果を支援先に対して提案し、活動を振り返ります。

企業と社会の人材育成フォーラムを開催

企業と企業、社会セクターとの関係による双方の課題解決にむけた協働を試行・実践するという潮流とともにJOINの取り組みについて紹介するフォーラムを開催しました。当日は、登壇者・関係者を含め130名を超える方々にご参加いただき、新しい潮流の背景、またその価値・効果について実際の事例紹介をしていくなど、様々な角度からお伝えしました。



企業と社会の人材育成フォーラム
130名を超える人材育成、CSR等の担当者が参加しました。

5 | 国際的ネットワークと情報発信

グローバル・プロボノサミット 2017

2017年3月7日～10日

第5回のグローバル・プロボノサミットのテーマは「プロボノを通じて世界的課題に立ち向かう」。国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）を念頭に、これまでのメンバー間の交流を中心としたイベントから、プロボノを通じて世界的な課題に働きかけていこうという意図が含まれています。

同時に、今回のサミットは、グローバル・プロボノネットワークが次のステージに移行する過渡期、つまり、グローバル・プロボノネットワークの運営を、会員団体を主体としたものへとどのように移行していくか、について活発な議論を展開しました。参加した全メンバーで、グローバル・プロボノネットワークとして今後取るべきアクションについて投票するワークを実施するなど、それぞれが真剣にネットワークの在り方を考える様子が随所に見られました。

これまでのようにBMW財団とタッブルートファウンデーション主導で運営してきた組織から、みんなで作っていく組織としてのグローバル・プロボノネットワークへと変容していくことを、全員が実感する機会となりました。



グローバル・プロボノサミット
2017ポルトガルの首都リスボンにて開催され、世界各国のプロボノ運営団体、企業、財団等100名を超えるメンバーが参加しました。

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に参加

プロボノウィークとは、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等を集中開催し、プロボノに対する社会的関心を高めるグローバル・キャンペーンです。

期間中、日本では、「ママボノ」プログラムの開始、「プロボノチャレンジ KAWASAKI2016」の開始など、各種イベントを集中開催しました。また、日本から世界に向けて、アクティブなプロボノプロジェクトの様子をリアルタイムで発信しました。



メディア掲載一覧

新聞	◆毎日新聞 2016年5月30日
	◆山陽新聞 2016年7月13日
	◆毎日新聞（大阪版） 2016年7月18日
	◆フジサンケイビジネスアイ 2016年9月13日
	◆毎日新聞（大阪版） 2016年9月18日
	◆東京新聞 夕刊 2016年9月24日
ラジオ	◆読売新聞 2017年2月28日
	◆渋谷のラジオ 渋谷のプロボノ部 2016年4月～毎週火曜
	◆介護ビジョン 2016年4月号
	◆アントレ 2016年春号
	◆Oggi 2016年6月号
	◆AERA 2016年5月30日号
雑誌・専門誌	◆新日本保険新聞 2016年7月4日
	◆保険毎日新聞 2016年7月19日
	◆保険経済新聞 2016年7月20日
	◆RMS Message 2016年11月
	◆地方行政 2016年11月22日
	◆織研新聞 2017年3月7日
テレビ	◆NHK おはよう日本 2016年9月7日
	◆NHK 首都圏ネットワーク 2016年12月27日
地域情報誌	◆タウンニュース（川崎市内各地区版） 2016年6月24日、7月1日

講演実績

講演	◆みやぎNPO経営ゼミ 2016年7月6日
	◆ロフトワークイベント「Hack the City」 2016年12月2日
	◆市町村アカデミー - 幕張 2017年2月7日
	◆文京社会起業フェスタ - 文京区 2017年2月11日
	◆パナソニック社 Social Good Meetup 2017年2月16日
	◆世田谷区立男女共同参画センターらぷらす 2017年2月24日
	◆青森県 2017年3月19日

▼フジサンケイ ビジネスアイ 2016.9.13 プロボノ人材育成策で注目

プロボノ 人材育成策で注目

企業 社員のスキルアップへ 他社試合、導入

大企業に取入れられた「プロボノ」活動の中心人物のひとり、イシノリ洋子氏（写真）は、自身の経験から「プロボノ」の重要性を説き、企業に導入を促す。企業は、社員のスキルアップや、社会貢献の促進に「プロボノ」を導入している。イシノリ氏は、自身の経験から「プロボノ」の重要性を説き、企業に導入を促す。企業は、社員のスキルアップや、社会貢献の促進に「プロボノ」を導入している。



イシノリ洋子氏（写真）は、自身の経験から「プロボノ」の重要性を説き、企業に導入を促す。企業は、社員のスキルアップや、社会貢献の促進に「プロボノ」を導入している。

▼毎日新聞 2016.9.18 「ママボノ」の参加者募集 大阪で説明会



「ママボノ」の参加者募集

「ママボノ」の参加者募集。大阪で説明会。ママボノとは、ママのスキルを活かして社会貢献を促進する活動。大阪で説明会が行われ、参加者募集が行われた。

▼織研新聞 2017.3.7 世界各地で進化する「プロボノ」

世界各地で進化する「プロボノ」

世界各地で進化する「プロボノ」。プロボノとは、専門家のスキルを活かして社会貢献を促進する活動。世界各地で進化している。プロボノは、社会貢献の促進に役立つ活動であり、世界各地で進化している。

連帯、政策提言、マッチングなど多様な取り組みに。プロボノは、社会貢献の促進に役立つ活動であり、世界各地で進化している。プロボノは、社会貢献の促進に役立つ活動であり、世界各地で進化している。

6 | 会計報告

2015年度 2015年10月1日～2016年9月30日の活動計算書は以下の通りです。

科	目	金	額
I 経常収益			
1	受取会費		
	正会員受取会費	40,000	40,000
2	受取寄付金		
	受取寄付金	209,654	209,654
2	受取助成金		
	受取助成金	2,640,000	2,640,000
3	管理費		
	事業収益		
	サービス・ラットの提供を通じたNPO支援事業	1,585,918	
	企業・行政等との連携による「味の素」の運営事業	49,086,856	
	「味の素」の普及・広報・社会的制度化に関する事業	1,498,074	52,170,848
4	その他収益		
	受取利息	2,121	2,121
経常収益計			55,062,623
II 経常費用			
1	事業費		
	(1)人件費		
	給料手当	19,066,019	
	賞与	194,000	
	人件費計	19,260,019	
	(2)その他経費		
	外注費	13,635,815	
	会議費	3,183,703	
	交際費	152,754	
	旅費交通費	4,304,766	
	通信運搬費	239,279	
	消耗品費	365,059	
	新聞図書費	15,731	
	印刷製本費	759,810	
	租税公課	110,750	
	支払手数料	309,068	
	支払報酬	208,731	
	研修費	12,500	
	その他経費計	23,297,966	
	事業費計		42,557,985
2	管理費		
	(1)人件費		
	役員報酬	4,188,000	
	法定福利費	3,209,260	
	福利厚生費	70,762	
	人件費計	7,468,022	
	(2)その他経費		
	旅費交通費	1,080	
	通信運搬費	139,976	
	消耗品費	455,293	
	支払手数料	283,446	
	地代家賃	2,102,456	
	賃借料	88,200	
	租税公課	1,999,900	
	支払報酬料	702,000	
	その他経費計	5,772,351	
	管理費計		13,240,373
経常費用計			55,798,358
	税引前当期正味財産増減額		-735,735
	法人税、住民税及び事業税		70,000
	当期正味財産増減額		-805,735
	前期繰越正味財産額		4,722,495
次期繰越収支差額	次期繰越正味財産額		3,916,760

7 | 役員・スタッフ紹介

事務局所在地

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-6-3-502
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0055
大阪市中央区船場中央1-3-2-302
船場センタービル2号館3階
（大阪市コミュニティ協会大阪都市コミュニティ研究室内）
TEL 06-6210-4832
FAX 06-6125-3315



役員

理事

生駒 芳子
川渕 恵理子
嵯峨 生馬（代表）
中野 宗

監事

石原 英樹

特別顧問

奥山 俊一

フェロー

河田 浩司

スタッフ

東京事務局

小林 智穂子
小泉 英治朗
岡本 祥公子
津田 詩織
宮坂 奈々
樫尾 直美
角永 圭司郎
豊田 祐介
清野 あずみ
岩渕 美華
皆川 陽香
細川 美津子

関西事務局

槇野 吉晃
武富 貴子
堀 久仁子

賛助会員のご案内

この報告書でも掲載している通り、サービスグラントでは、企業・行政・財団との協働プロジェクトを通じて、プロボノの展開とともに、団体の財政基盤を確保しながら活動を続けています。

しかしながら、この報告書に記載したプロジェクト総数94件のうち、約29%に相当する27件は、特に財政的な裏付けはありませんが、社会課題解決に寄与するNPOの支援につながると考え、プロボノプロジェクトの立ち上げ・運営を行っています。

こうした自主事業を支える仕組みが賛助会員です。

サービスグラントによるプロボノを通じて、支援先となるNPO・ソーシャルセクターにインパクトのある支援を提供することに向けて、ぜひみなさまの応援をお願いします。

賛助会費は、**1口3,000円/年** から。

お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者の皆様が寄付金の税額控除を受けることができる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは、こちらのページをご覧ください。

<http://servicegrant.or.jp/aboutus/support.php>

